

日韓交流今昔

「水魚の交わり」を誓う。韓国の弘明高校と溝部学園別府女子短大付属高校の文化交流校の調印式報告

溝部学園理事長

相良 範子

一九九〇年七月二十八日（土）

韓国慶尚南道蔚山^{うりざん}の弘明

高校と吾が校との文化交流

校の調印式が二十八日午前

十時から別府市亀川の溝部

学園八十五年館で行れまし

た。式には両校の関係者百

十人が出席しました。両国

の国歌が流された後溝部学

園理事長が、「これからの

教育を考えると、国際的に通用する人材の育成が大事

で、国際化とは国際交流なくてはできません。若い人々

に大いに交流をしていただいて、国家が必要とする人



物、国際的に通用する人材を育成しましょう。そして儒

教に培れたお国の教育、倫理ある人材育成こそ、これか

らの二十一世紀の教育に求められるものであります」と

あいさつを送りました。季源雨、弘明高校理事長さんも

「世界は、和解と繁栄の時代に入っており韓日両国の高

校が文化交流しながら国際化時代の若者を育てましょ

う。水魚の交わり」の言葉を胸にお互いの友情を永遠に築

いて行きましょ」とあいさつしました。さらにステー

ジで児玉彪市日韓親善協会長の立合のもとに、相良範子

理事長、相良好仁校長、委源雨理事長、季来稜校長四人

が締結書に調印しました。両校長あいさつ後、生徒代表

同士がステージに立ち、藤原直子さん（別府女子附属高

校二年生）が「私たちの高校は、友情を大切にし勉学と

スポーツに励んでいます。たった今、調印が終り、これ

からは皆さん方の学校にも友情の輪を広げてゆきます」

金洙敬君も「伝統ある皆さんの学校と文化交流校になっ

たのは大きな喜び」と、あいさつし合いました。

記念品交換では弘明高校から「水魚の交わり」と書か

れたつぼと、新羅時代の国寶と今なっている焼物（模造

品ですが)三点が送られました。別府女子短大からは電気製品など、両校の生徒が互いに送り物を交換しました。弘明高校は一学年ハクラスの指折りの進学校であります。別府を訪れたのは代表三十三名と教師と父兄で約五十名です。送り物としていただいた新羅時代の古い焼物の写真をこの報告につけます。

吾が学園のある野田台地は三世紀から開かれていた土地であり、三韓から来日された金龜和尚の開かれた大分の杵原神社その御神幸の絵巻が江戸時代かゝれているのを私は大分県立芸術会館十周年で見ましたが、すべて韓国の様子の御即位式の御服装でありましたし、その金龜和尚様の教えを受けて(当地野田の河野氏から出た方)禪宗の教本と云れる磐巖録まがらが書かれたと云うことです。又日本書紀によりますと大分空港沖にある姫島も新羅のお二人の姫によって開発されたといわれています。キツネ踊もこれをたたえるために残されたと云われています。このテーマの姫島キツネ踊を私方が手工芸作品にして、文部大臣賞をとり、天皇皇后両陛下の天覧をいただきます。又、臼杵の石佛様これも「豊後石佛火まつ

り」として手芸作品にしましたが、これも文部大臣賞を受賞いたしました。この石佛様を作られた日羅は、武人でありすぐれた学者であり時の聖徳太子に迎えられて佛法をもって国の政治を行うと、十七条の御示しの中に大きな影響を与えられました。

まことに昔から韓国を通じ日本の精神史、思想史の中に深く息づいていることが分ります。韓国の若い生徒の皆さんの伸々と明るく、私の学園の生徒とのプレゼント交換で頬を染めていた初々しさに、参列の者心から拍手をいたしました。韓国の土器や私方の学園の手工芸美術館は、いつでも開放してありますので、御覧になりたい方は、いつでもお出かけ下さい。又、こちらから韓国に訪問もありますので御希望の方は御参加下さい。

日韓両国の交流を通じて平和な日本であれかしと祈っております。別府史談会の皆様様の御健康を祈っております。